

柏崎市内におけるブナの巨木の発見

柏崎市立博物館 佐藤俊男

筆者は、「新潟県植物保護第3号」で、柏崎の市街地でのブナ林の新発見を報告したが、今回また、柏崎の植生図にも記録されていないブナの生育地を発見したので紹介したい。

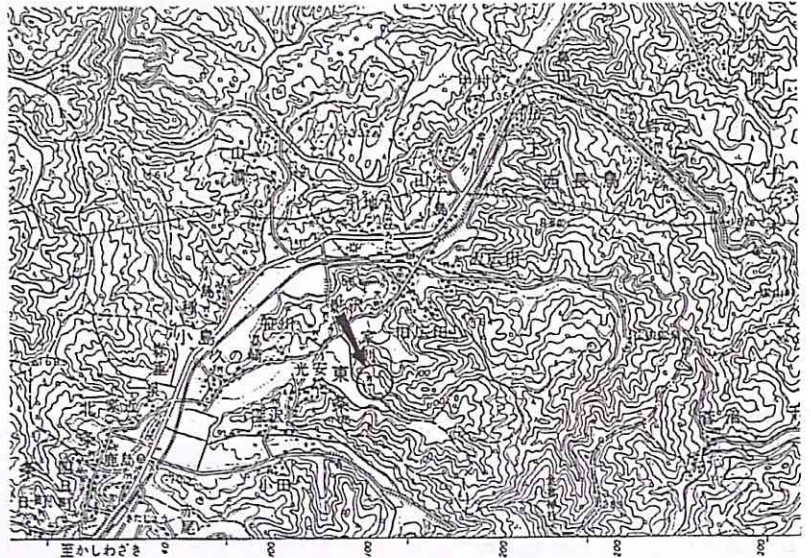
ブナの巨木を発見した場所は、柏崎市東条旧広田地区の標高約164mの伊豆権現の敷地内である(図1)。

柏崎市内におけるブナ林の分布については、大沢、米山付近であるが、黒姫山の清水谷側斜面、米山登山道の大平口斜面等は標高500~800mのところであり、善根等は標高100~200mの低地に点在している。また、大沢等では、90mという低地に樹林を形成している(「柏崎の植物」1981)。

これらのことから昔は、内陸山地の大部分がブナ林でおおわれていたと推定できる。前回のブナの発見もそうであるが、今回の発見も内陸部の低地での発見なので、今後の調査によっては、他にブナの生育地が発見される可能性があるであろう。

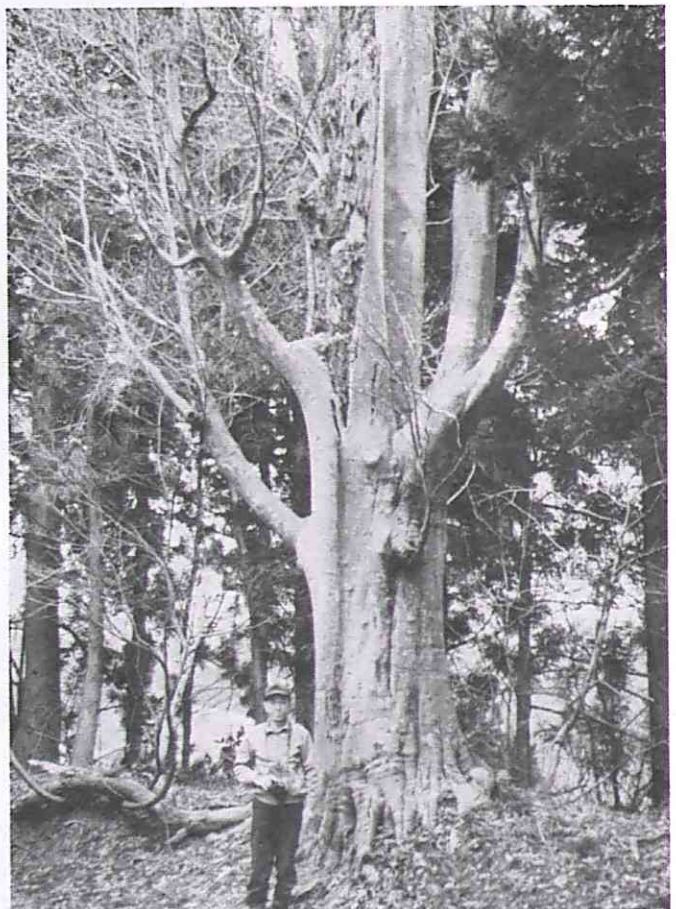
今回のブナの巨木は、前から筆者が発見しており、1990年3月31日(土)に布施公幹氏と再度現地調査を行い生育地の環境を調べた。図2の写真のブナの巨木は、胸高幹周306cm、高さ約20mを越える大木であり、樹令300年以上は経っていると思われる。市内でも現在これだけのブナの巨木はないであろう。またこのブナの巨木の他にも、権現社に行くまでの参道の周辺には数本かのブナが点在しており、権現社の裏手の斜面には、実生から育ったと思われる幼木も何本か確認している。

現在、ブナを保護する運動が各地で行われており、ブナ林は日本を代表する美しい森林だといわれている。しかし、ブナの研究はまだ不十分であり、記録もされないままに伐り尽くされたブナ林も数多くあった。今回たまたま地元の旧広田地区の方々に聞いたところ、ブナが権現社にあることはまったくわからなかったということです。この報告が、貴重な資料になれば幸いです。



【図1】ブナの巨木発見位置図

(国土地理院発行5万分の1地形図「柏崎」を使用)



【図2】ブナの巨木(人物は布施公幹氏)